日本生理学会アンケート2012の結果報告

日本生理学会・男女共同参画推進委員会

2012年3月、第89回生理学会松本大会でアンケートを実施した。

目的は、生理学分野における女性の割合や現状を明らかにし、将来の男女共同参画の理想的なあり方を模索するためである。

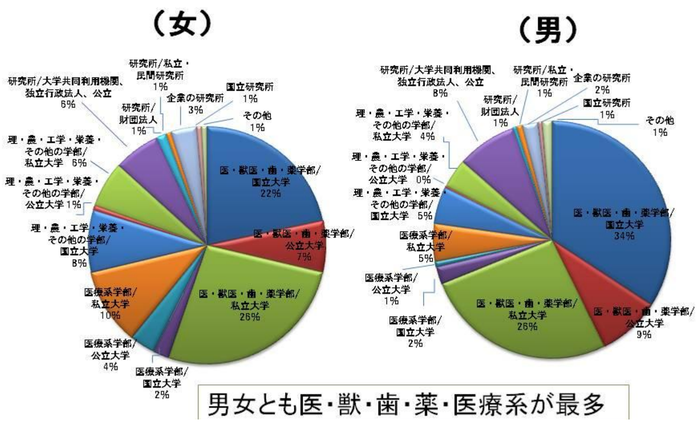
その結果を報告する。

0. 性別

回答者551人、女147、男382
会員2640人なら回答率21%
女性32%、男性18%

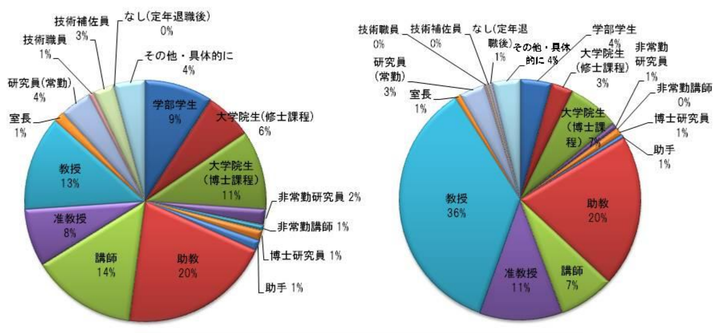
1. 所属

2. 所属機関



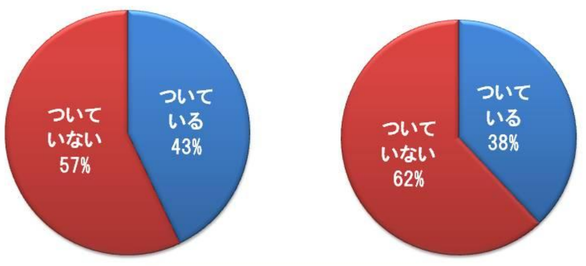
男女とも医・獣・歯・薬・医療系が最多

3. 身 分



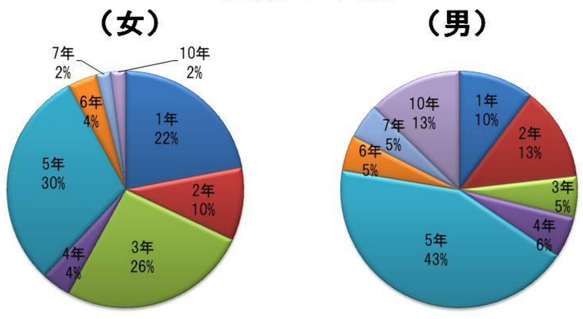
女性は助教が最多、男性は教授が最多

4. 任期の有無



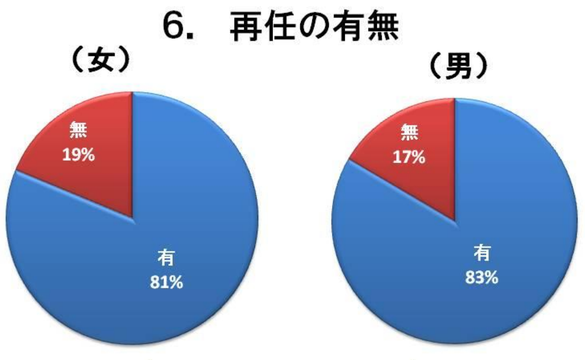
任期付きポストは女性に多い

5. 任期の年数

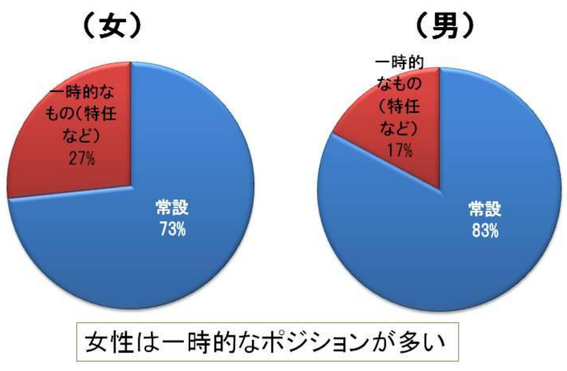


女性は任期が短い人が多い

6. 再任の有無

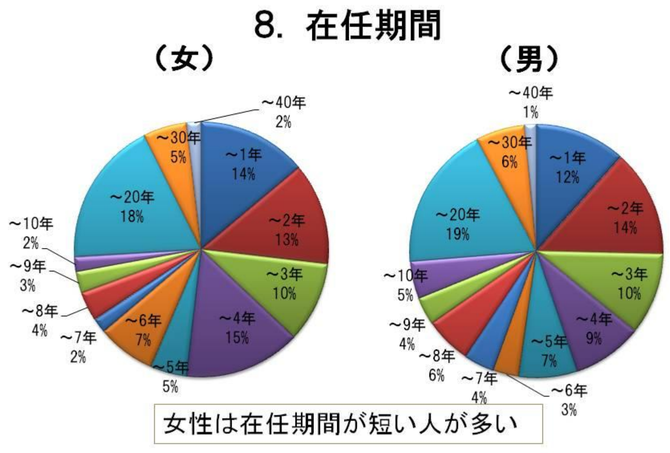


7. ポジション



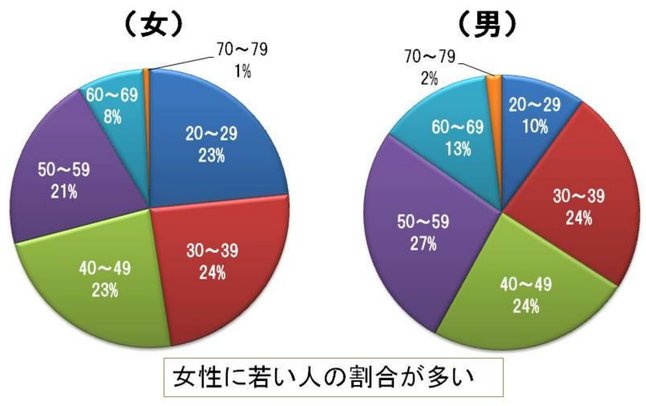
女性は一時的なポジションが多い

8. 在任期間



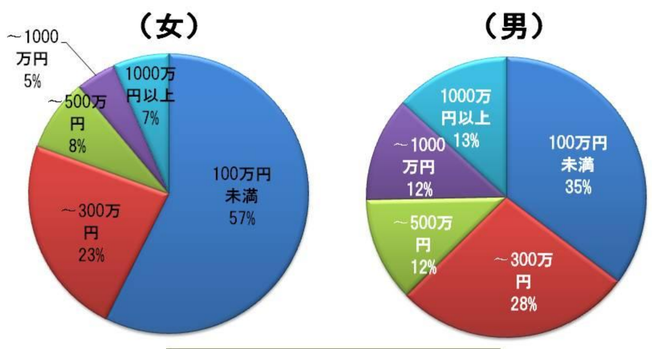
女性は在任期間が短い人が多い

9. 年 齢



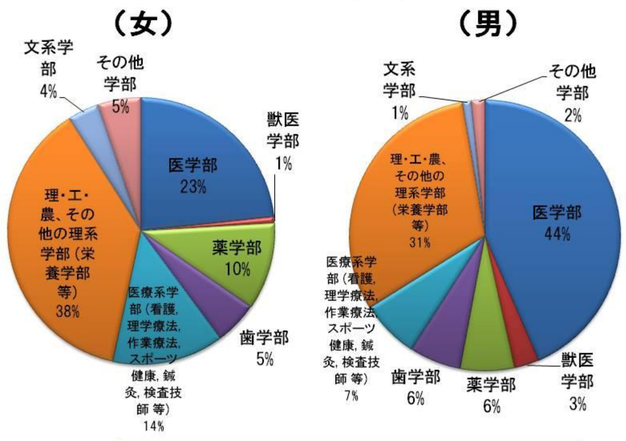
女性に若い人の割合が多い

11. 2011年度研究費



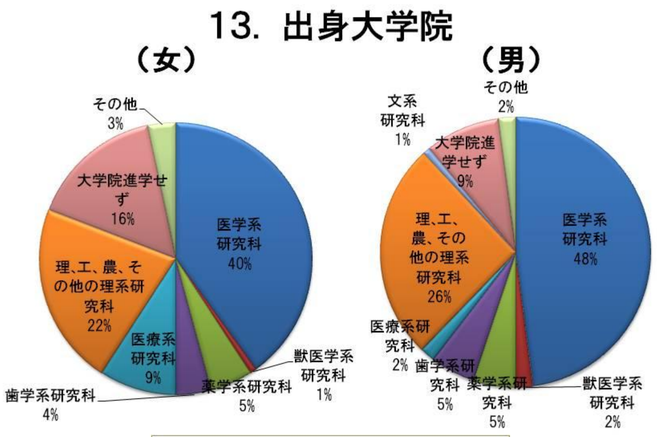
女性の方が研究費が少ない

12. 出身学部



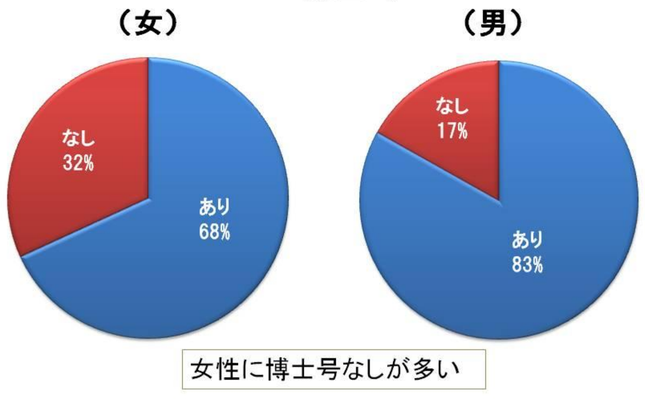
女性は医学部が少なく、理工農系が多い

13. 出身大学院



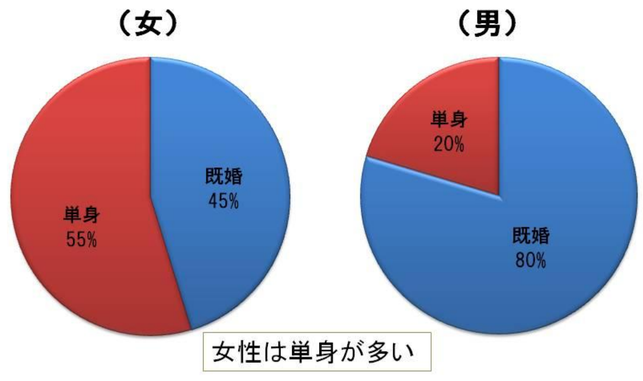
女性に大学院進学せずが多い

14. 博士号



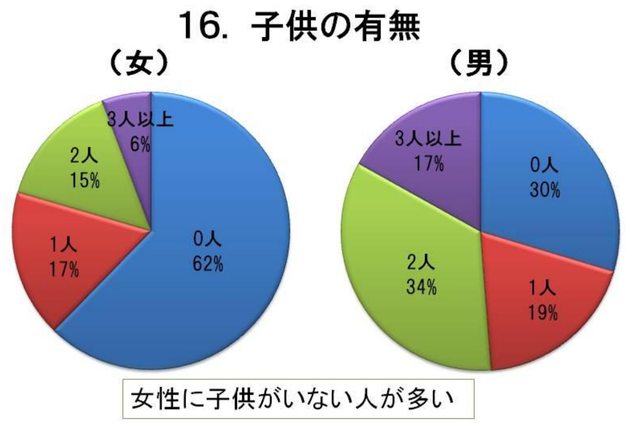
女性に博士号なしが多い

15. 婚姻状況



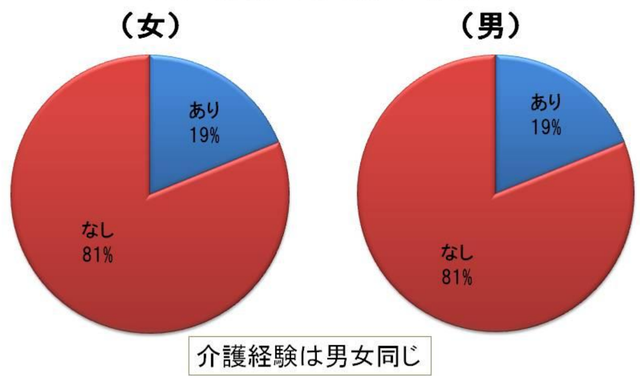
女性は単身が多い

16. 子供の有無



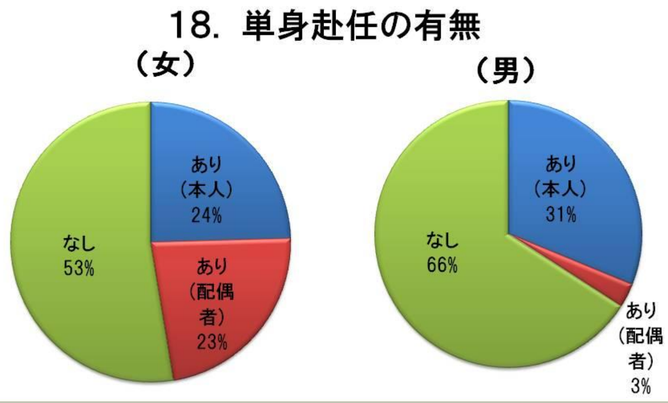
女性に子供がいない人が多い

17. 介護の経験の有無



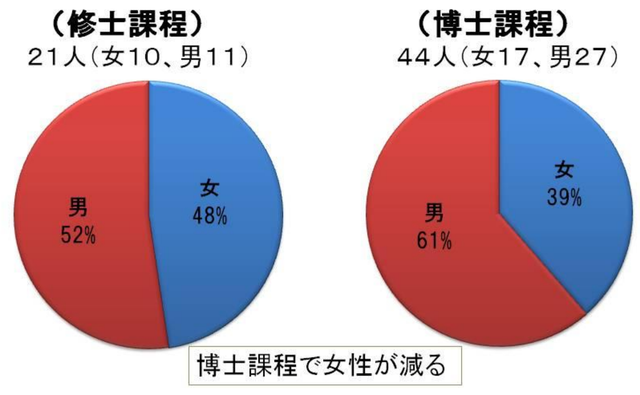
介護経験は男女同じ

18. 単身赴任の有無



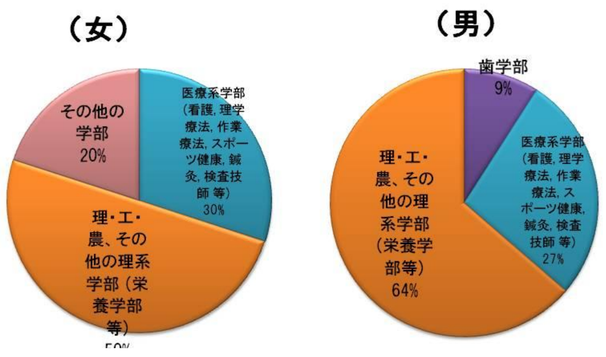
女性は本人と配偶者の単身赴任経験が合わせて半数、男性は3割

大学院生（修士・博士）の男女比

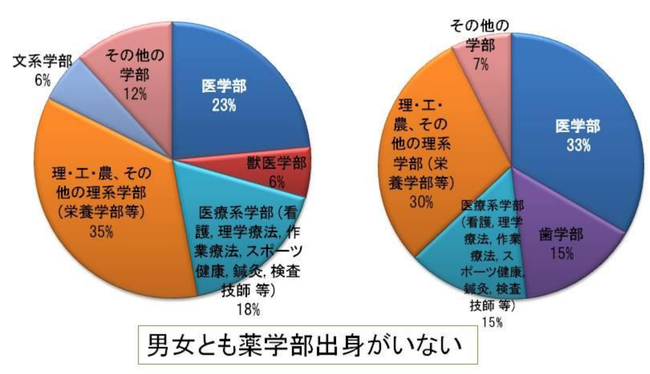


博士課程で女性が減る

大学院生（修士課程）の出身学部



大学院生（博士課程）の出身学部



男女とも薬学部出身がいない

結論

本アンケート結果は、女性が男性に比べ、少人数で、身分が低く、任期付ポストが多く、任期は短く、研究費が少なく、大学院卒も少ない。つまり、**生理学分野に男女不平等が存在すること**を示している。

ただ、若い女性の割合が増えていることから、未来に希望が感じられる。

しかし、自由回答は、男女不平等の認識が、女性は高いが、男性は低いことを示した。この男女間の認識の違いをどうすれば解決できるか、検討の必要がある。